

第2章 福生市の現況とまちづくりの課題

2-1 社会経済情勢の変化への対応

(1) 少子高齢化への対応

これまで、福生市の人口は平成12年まで増加を続けてきました。しかし、それ以降は減少傾向となり、福生市総合計画（第4期）では、平成21年3月の60,774人から平成32年の推計人口は56,000人まで減少すると予測しています。

年齢三区分別人口を見ると、平成32年に0～14歳人口は6,000人（10.7%）、15～64歳人口は35,000人（62.5%）、65歳以上人口は15,000人（26.8%）となり、少子化・高齢化が進展すると見込んでいます。

特に、65歳以上の人口割合は、平成21年3月の19.1%から10年間で7.7ポイント増加し、生産年齢にあたる15～64歳の人口は68.2%から10年間で5.7ポイント減少する見通しとなっています。

今後の高齢化社会に対応するために、歩道整備やバリアフリー化など歩いて暮らせるまちづくりが求められています。

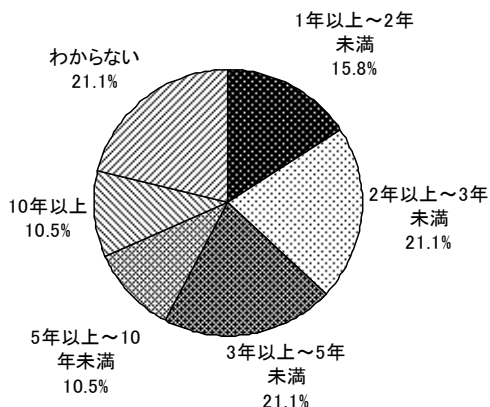
(2) 地球環境に配慮した低炭素型のまちづくり

地球環境保全への関心が高まり、国際的にも温暖化ガス削減の取組がますます重要となっています。そのため、福生市としても基幹的な公共交通のそばに拠点がコンパクトにまとまっている集約型都市構造とすることで、マイカーに過度に依存しない低炭素型のまちづくりを推進することが重要となっています。

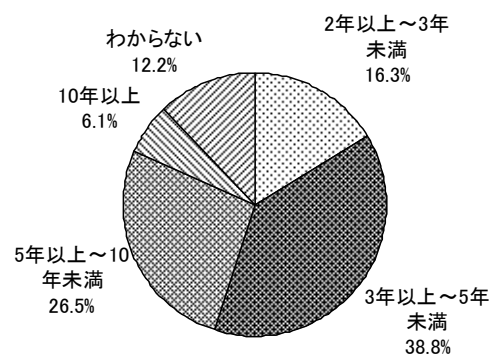
(3) 定住化の促進

現在市内の賃貸住宅の平均入居期間は、ワンルームタイプ、ファミリー世帯タイプ、どちらも5年未満が半数以上を占めているなど、定住化が課題となっています。住環境の整備や魅力的な拠点づくりを進め、にぎわいや活力を維持していくまちづくりが求められています。

入居期間（ワンルームタイプ）



入居期間（ファミリー世帯タイプ）



資料：賃貸住宅所有者向けアンケート

図3 賃貸住宅の平均入居期間

第2章 福生市の現況とまちづくりの課題

(4) 既存施設などの維持管理の推進

人口減少や高齢化に伴い税収の伸び悩みも懸念されます。そのため、都市基盤整備を推進するまちづくりから、既に整備されているものを有効に活用・維持したり、着手が可能なところからきめ細かく取り組んでいくまちづくりへ転換していく必要もあります。

(5) 防災性の向上

現在、市内では幅員の狭い道路や木造住宅が密集している防災性の低い地区も見られます。

災害時の安全性向上を図るため、避難路や延焼遮断帯として機能する緑豊かな防災環境軸²を整備するとともに、道路整備の機会を活用した木造住宅が密集している地区の解消が求められます。



図4 防災環境軸のイメージ

出典：国土交通省HP

² 防災環境軸：木造密集市街地内において、都市計画道路などの公共施設の整備を実施することで、沿道地域に民間建築活動が誘発され、不燃化が進み、延焼遮断機能、避難機能などの防災機能と地域の生活拠点機能や環境改善機能を持つ軸が形成されることをいう。